（様式１）

令和４年度　学校運営協議会自己評価表

浜松市立（泉小学校）学校運営協議会長

＜評価項目１＞　学校運営の基本方針について熟議することができたか。

○　校長の「教育は人なり、学校は社会の縮図、予測が難しい今後の社会の中を生き抜く力を身に付ける」の考えに対し、目指す学校像は「子供たちが楽しく通える学校、安心・安全で保護者や地域に信頼される学校」。これらが一体となって心身ともに健やかな子供を育てる「ファミリー泉」を構築する構想について共有できた。

○　安心して話し合う雰囲気のもと、委員から色々な活発な意見があり熟議ができた。特に学校、家庭、地域で一緒に子供を育てる目標として、共有できたと思う。

○　学校の現状を知り、学校の教育目標だけでなく、学校教育で目指すもの等をしっかり理解していこうと、委員が様々な点から積極的に意見を出し合い学校、家庭、地域で共有することができた。

●　学校運営の基本方針について説明を受け、理解したつもりだが、まだ熟議をとおして学校、家庭、地域で一緒に子供を育てる目標として、共有できたとは言い難い。

＜評価項目２＞　学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか。

○　地域の担い手を育てる取り組み、挨拶活性化について話し合った。子供の教育は学校、地域に任せていれば良いと思っているが、遊びの中に成長があり自治会や協働センター等の活動において成長を進化しなければならない。

○　委員から様々な意見が出て、教育活動の質の向上が図れた。

○　子供たちの教育活動における協議について、学校支援コーディネーターから計画・活動報告があり、さらに発展した提案もあって、その活動に対する熟議をすることができた。色々な視点からたくさんの発想等が生まれ、教育活動の向上につなげられると実感した。

●　子供たちの力や可能性を伸ばすことについて、学校の課題やニーズが十分つかめない状態であるが、「あいさつ運動」を地域と学校が連携して具体化できたことは一歩前進と考えている。

●　学校支援が主な活動となっているが、ニーズを受け取り地域を通し専門知識を持つ方々との繋がりを持つことができた。一方、授業内容、活動内容についての方向性についてはまだまだ熟議の方法は工夫が必要と感じる。

●　学校に籍を置き、学校が生活の多くを占める子供たちですが、当然それだけが環境のすべてではなく、日々子供たちに伝えている安全の確保と学校が望む昔ながらの地域活動の両立は、コロナ禍においては一層バランスが難しいのではないかと思う。

＜評価項目３＞　今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

○　熟議を通して、学校、家庭、地域で一緒に子供を育てる目標として共有できたらと思う。安心して話し合う雰囲気をつくり、委員から色々な活発な意見が出た。来年度も委員全員で意見を出し合い教育活動の充実のために、協議会の合意として意見をまとめることができるようにしたい。

○　各委員の色々な視点からの提案がたくさんあった。そのことをふまえ、学校運営の基本方針にそった提案内容を考え、来年度以降も成功体験を増やしていきたい。

○　何について熟議が必要なのかを含めて、委員で意見を出せたらより内容のある熟議につながると思うで、取り組み方を工夫していきたい。支援のニーズを共有し、双方向で確認した上での提供につながるよう学校職員の方と外の方をつなげる方法をより良いものにしていきたい。